
fool

ツン子

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

fool

【Nコード】

N2962BA

【作者名】

ツン子

【あらすじ】

私はきつと馬鹿で愚か者で天才なのかもしれない。

「rara、rirara、…ふふっ！あはは……！！！」

私はとても歌が下手なんです、そりゃあもう聴いてられないくらいに。

「rara…、rurari、」

くるくる

くるくる

ぐるぐる

包帯を外しては巻いて外しては巻いてを繰り返す。

だって恥ずかしいんですもの、貴女と目をあわす事さえ、今の私にはなかなか出来ない。

私は包帯を外し終わった所で、ふとあることに気がついた。

「貴女、目が無かったじゃないですか」

「貴女、目が無いのですね」

「貴女、耳も無いのですね」

「貴女、体も無いのですよ？」

「貴女、話さないのは何故ですか？」

「貴女、死んでいるんですもの！！」

「ふ、ふふっ……！可笑しいわ！！」

「笑うほどに！あはっ！！」

「ははは……ふふ……」

「……………貴女、」

「どうして死んでいるのですか？」

「悲しいわ」

「私、」

「とても悲しいわ」

「とてもとても悲しい」

「皆、死んでしまったんですもの」

私はその人間の顔とは言えない異形なモノに口づけをした。

「私が皆と一緒にいたいって思うと、皆死んでいくんですもの」

「貴女もそうでした」

「綺麗な貴女が好きでした」

「生前の貴女が大好きでした」

r u r a … r a a r a r a r a a a ……

「私は何もしていないのですよ?」

「悪いのは彼女です」

「私が一緒にいたいと思う度に彼女は人を殺すのです」

「彼女は頭が悪いのです」

「だけど、」

「私の一番の友だったのです」

「この間、彼女は突如姿を消しました」

「それ以来彼女に会っていません」

「気づくと一人ぼっちになっていました」

「返事を、」

「返事してください」

「もう、私の周りには

「貴女しかいないんです」

という、

ただの妄想に私が浸っている事には誰にも分からないのでしょう。
いい加減やめればいいものを

それでも、

妄想に溺れる私は

なんて愚か者。

（後書き）

完 全 に 脱 線 小 説 だ お

∨
(
<
。
>
。
<
>
)
∨

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2962ba/>

fool

2012年1月7日18時46分発行